



＜新入生への提言＞

—求めよ、そうすれば与えられるであろう—

図書館長 門田見 昌明

新入生諸君、入学おめでとう。といっても、早くも一か月が過ぎようとしており、大学内外の事情にもいくらか慣れてきたことと思う。多少の憧れと期待が、失望に急転換しつつある学生もいるかもしれない。与えられることの多く、それに慣れてしまった人にとっては、大学というところは「ぬるま湯」のように思えるかもしれない。『少年老いや早く、学成りがたし』といわれる。時間は無情に流れて止まることはない。一刻も早く自らの学生としてのベースをつくりだすことである。

この館報と前後して、新しい『大学広報』が出ることになっているが、そのなかに先生方が学生諸君に推薦する「この一冊」があげられている。広い意味での大学生にとっての教養的な書物であり、それらは図書館にあるはずである。一人で静かに読み、思索するもよし、仲間と同じ書物について大いに語りあうのもまた楽しいと思う。

最近の若者の読書離れがいわれ、指示待ち傾向が指摘されている。一つの答えを早く出す受験型学力では優れているが、現実の生活と密着した本格的な課題対決型の思索に劣ることが指摘されている。より広く深い視点からの主体的な「問題発見能力」「疑問を抱く心」に劣るといえるのかもしれない。求める意欲の退化は、人間としての自立の形成を妨げ、他者への深い共感や友情に満ちた批判や本格的な対話の能力を弱めることになる。

バブルがらみの混濁の世相だが、大学は諸君に広い視野と透徹した批判的精神を求めたい。大学が、高校以下の学校と違うところはいくつかあげられるが、図書館の大きさもその一つといってよいであろう。新しいこと、大きいこと、ゆったりしていることは、それ自体結構なことであるが、大変なお金をかけて飾り物をつくったわけではない。使ってもらわなければ文字どおり『宝の持ち腐れ』である。先ずは気軽に訪れてほしい。761席の机・腰掛けと約60万冊の図書・資料が諸君を待っています。

目

次

読書・図書館利用の勧め

図書館を書斎の一つとして	
大隈 一武	----- 2
Don't miss the new University Library!	
T. Trubert	----- 2
本の思い出	宮崎 幸雄 ----- 3
「少なく読み、多く考えよ。」	
長尾 隆	----- 3

図書館 4 月より全面オープン	----- 4
「機械検索はとても便利！」	----- 5
“主題(テーマ)で資料を探すには”	----- 6
新施設利用案内	----- 7
就任にあたって	
魅力ある図書館にしたい	
若松 昇	----- 8

読書・図書館

図書館を書斎の一つとして

法学部教授 大隈 一 武

図書館が増改築されて皆さんの利用を待っています。ゆったりとした書架と机の配置に絨毯の敷かれた落ちついた雰囲気のあるレイアウトの中で、皆さんが大学生活を始めるにあたっての恰好の場所になりそうです。

閲覧座席761席、収蔵能力120万冊というハード面はさておき、まずは1階の吹き抜けのあるロビーのソファで新聞でも読みながら図書館の雰囲気に浸ることで図書館通いを生活の一部とする習慣づけをして、気が向いたら2階から上へと上ってみませんか。

開架式で書架から目指す本を手にとって直ぐに読めるのが便利なところで、その書架は専門毎に階に分かれています。法律書関係は、まず2階に授業の参考とする指定図書が置かれています。国連寄託図書も活用できます。法律書は3階に並んでいますが、他の分野にも跨がるような法律、例えば、独占禁止法関係は経済関係の書架にもあります。また、法令・判例集コーナーがあります。時々、書架の間を散策しながら、どんなものが何処にあるかを見ておくといざ調べ物をするときに便利です。

法律専門誌も「法学教室」「法学セミナー」「ジュリスト」「法律時報」「労働法」などがあります。はじめはそれぞれの目次に目をとっておく位で結構です。そのような情報収集に努めていると、そのうちに傾向がわかり興味が湧いてくるはずです。後は、皆さんの気持次第、4年間の大学生活が有意義なものになるかどうか、努力すれば道が開けます。図書館を書斎の一つとして、自分の方向を見定めて下さい。

Don't miss the new University Library !

文学部講師 T. Trubert

When you first came to Seinan University last April, you might have noticed and even peeped into that brand-new brown building called the library. My question is: *have you ever tried to use it?* First of all, don't feel shy to go in and discover the place by yourself. Take your time and wander along the book-shelves on the different floors, become acquainted with the building by taking a look at the newspapers on the first floor and the magazines on the second floor, then take a stride on the upper floors; I assure you that you will be surprised by the number of books which can arise your interest. The library contains real treasures that you have access to by being a student here.

You will find not only books but also films; the collection of English, French and German films on video and laserdisc is growing. If you have two hours to spare, go to the front desk and ask for a film, there are video-decks and monitors waiting to be used by you. Isn't it a nice way to practice a foreign language by watching a good film?

Above all, when you're looking for a particular book, do go to the charming ladies at the front desk and ask for information, they will help you find it. You will soon get used to the computer and card catalogue to check for books by yourself easily: get the code number, go to the stacks, pick up the book and bring it down to the counter so that you might borrow it.

A piece of cake !

利用の勧め

本の思い出

丸 善(株) 宮崎 幸雄
(商学部77期卒)

私自身、小・中学校時代親から本を読めとしかられ、本そのものにひどく拒絶反応を感じた時期があったと記憶しています。そんな私が現在書店に勤め新入生の諸君に“読書のすすめ”なる原稿を書いていることを不思議に感じます。

書店に勤めるようになったのは“本が好き”だったからですが、そんな気持ちになったのは大学生の頃になってしまったように思います。北杜夫の“ドクトルマンボウ航海記”を読んだのがきっかけでいつも何かを読んでいると落ち着かない状態になっていました。

“一日の中で一度は本を読まないとはかになる”と、何処かで聞いた言葉が気になっていて本を読むことを続けさせたかもしれません。

在学中は、日本の文学物を多く読んでいました。特に、太宰治、川端康成が好きで全集を買って読んでいました。太宰を読んでいる時、バイト先で知り合った国文科の学生から“太宰は、一度は誰でも通る道”と、言われたことや、“今日は、桜桃忌ですね”という話がラジオ等から流れてくると読んでいた頃を懐かしく思います。また、日本の自然の景観に興味を持ったのも、川端康成の“古都”を読んだのが始まりでした。こうして読んでいる内に、私自身の感性や考え方で気付かなかった処を本を読むことで補っていたように思います。

“西洋を築いた書物”という本があります。タイトルが示すように、本は文化を構築する全ての分野の知識・思想等を網羅したものと思います。人それぞれ本との関わり方、求めるものは違いますが、自分のためだけに使える時間が充分あるこの学生時代に、あなた自身を高めるためにも広い範囲で本を読まれることをお勧めします。

「少なく読み、多く考えよ。」

大学院法学研究科 長尾 隆

寺田寅彦随筆集第三巻(小宮豊隆編、岩波文庫)「読書の今昔」に紹介されている一句で、日下部四郎太博士が、若かりし頃、座右の銘のひとつにしていたものらしい。

「少なく読む。」あれこれと模索することなく、自分が読みたい本、読まなければならない本に簡単にめぐり合うことができたならどんなによいだろう。

大学生活は何かと忙しい。学業、クラブ活動、アルバイト、友達との付き合い、時にはデートなど、どこに重きをおくかはともあれ、大学生活にはどれひとつとして欠かせないものばかりで、ともすれば過密スケジュールを組まざるをえなくなる。果たしてそのような状況で、「読書」の時間はどれほど取れるであろうか。

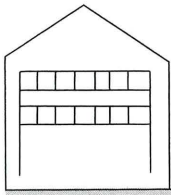
板坂元「考える技術・書く技術」(講談社現代新書)には、「反読書的読書法」なるものが紹介されている。つまり「少なく読む」方法である。これについて、いくつかの具体的な方策が述べられているが、読書というより情報処理といった色彩がいささか強いようである。

「読書の今昔」に次のような一節がある。「これ(自分が読みたい本、または読まなければならない本)も親のかたきのようなもので、私の尋ねる敵と他の人の敵とは別人であるように私の書物は私が尋ねるよりほかに道はない。」

[() 内筆者]

「少なく読む」方法にかかわらず、読書法には確固たるマニュアルはないのかもしれない。

新入生の皆さんは、自分なりの本の探し方、そして自分なりの読書スタイルをもっているだろうか。



図書館 4月より全面オープン

図書館増改築に伴い、これまで部分開館となっていた図書館が4月1日より全面オープンしました。この間、利用者の皆様に大変ご迷惑をおかけしましたが、利用者に対して充実したサービスが提供できるように体制を整えてきました。そこで、この4月よりサービスを開始した部分についてご紹介します。

《施設面では》

座席数の増加

600席から761席に大幅に増えました。また、1人掛け（キャレル）も増やし、じっくり勉強に取り組めるようになりました。

国連寄託図書館のオープン

増改築の間、閉鎖していました国連寄託図書館閲覧室を2階閲覧室東側に場所を移し、利用を再開しました。ここには国連、EC、OECD等の国際機関が発行している会議録、図書、雑誌を所蔵しています。ご利用希望の方は、1階カウンターまたは国連寄託図書館備え付けのインターホンで申し出てください。

グループ学習室の設置

グループで、図書館の資料を手元に置いて学習できる部屋を4室（3階、4階）設けました。そのうちの1室は、ビデオが視聴できます。どうぞ、ゼミやクラブ単位で研究発表を行う時など、利用してみませんか。利用方法については7ページをご覧ください。

法令判例室の設置

日本の法令・判例集を1か所に集め、包括的な調査ができる部屋を4階に設けました。なお、この部屋は閉架となっていますが、利用を希望する方は、1階カウンターに申し出てください。

《資料面では》

開架図書の充実

今まで閉架書庫にあった図書の中にも、閲覧希望が多い図書がありますが、これらの図書をなるべく開架閲覧室に配架するようにしました。その結果、開架図書は、16万冊から18万冊に増加し、学生が自由に閲覧できる図書が多くなりました。次の図書が開架図書となったものです。

2階 ◎大型美術書

◎文庫本

- ・クセジュ文庫
- ・講談社現代新書
- ・岩波新書
- ・新潮文庫
- ・中公新書
- ・角川文庫
- ・東洋文庫
- ・日経文庫
- ・保育社カラーボックス

3階 ◎法律関係雑誌の*バックナンバー

- ・ジュリスト
- ・法学セミナー
- ・法律時報

4階 ◎部分開館の際に閉架に仮配架していた洋書

ビデオの展示

1階カウンター横にビデオを展示しています。視聴したいビデオがあれば、すぐにAVコーナーで視聴できます。利用希望の方は、1階カウンターに申し出てください。

*バックナンバー：以前に発行された雑誌のこと。

機械目録はとっても便利！

図書館が新しくなりました。いすや机を取り替えて、エアコンも音が静かなものを取り付けています。その他いろいろな設備を改善して、以前の図書館と比べて読書や研究のためにとてもよい環境が整っています。そして、その素晴らしい環境の中には、様々な知識の実が本棚にたわわに実っています。今回は、利用者の皆さんが鈴なりの知識の実の中から、好みの実をどのように選んで、おいしく味わっていただけるのか？ということについて、その方法の1つをご紹介します。

本学図書館には、いわゆる本・雑誌と呼ばれるものから、ビデオテープ、コンパクトディスク、CD-ROM（電子出版）といったもので、さまざまな媒体に記録された知識や情報が約60万冊あります。この知識や情報を十分に活用することによって、効果的な学習、高度な研究、的確な問題解決を行うことができるのです。

では、その60万冊という膨大な資料の中からどうやって意中の情報を選び出せばよいのでしょうか。そのための道具が、蔵書資料を管理している蔵書目録です。本学図書館には、収蔵対象、検索形式によって、カード目録、機械目録、雑誌目録の3つの目録が用意されています。その中でも特に、これから図書館の情報検索の中心となる機械目録については、利用者の皆さんにその効用をよく理解をしていただきたいと思います。

コンピュータの中に入っている資料の情報は、いろいろな規則によって、書名や著者名といったデータに区分され、さらにそのデータの中で、検索キー（キーワード）となるものが作成されています。この検索キーを手掛かりに、端末機から情報を得ることができるというわけです。従来の目録カードによる検索と比べて、機械検索が優れている点は、本学図書館においては、分類、著者名、書名の3種類の目録カードがあり、それぞれの配列方法によって規則的に配列

されています。しかし、コンピュータのデータの中では、分類番号、著者名、書名のほかにも、多様な検索キーをもつことができます。そのため、データに対して多面的にアクセスすることができます。また、検索の結果として得られる情報についても、検索キーを複数指定することにより、特定主題に関する資料を絞り込むことも、逆に網羅的に集めることもできます。カード目録においては、書名はその頭の単語からしか検索できませんでしたが、コンピュータによる検索では、書名中に含む単語も検索キーとして活かすことができますので、検索の幅が広がります。何よりもカードケースをウロウロと移動しながら資料を探したりしないで、1台の端末機の画面の前に座ったままで調べられることも大きなメリットでしょう。

このようにコンピュータを利用することによって、研究の幅が広がったり、深くなったり、時間的なゆとりができたりと、いろいろな部分で目に見えない大きな付加価値を生み出すことができます。まずは、キーをたたいてみることでしょう。図書館は、利用者の皆さんが主体的に、そこにあるすべての資料を活用できる場所です。図書館の入り口から入って、カウンターの右側にある端末機を使って、図書館のあちこちに実っている中からお気に入りの知識の実を見つけてください。なお、端末機の手入れなどについて、説明が足りない部分が多いかと思うしますので、ご不明な点は、遠慮なく館員へおたずねください。

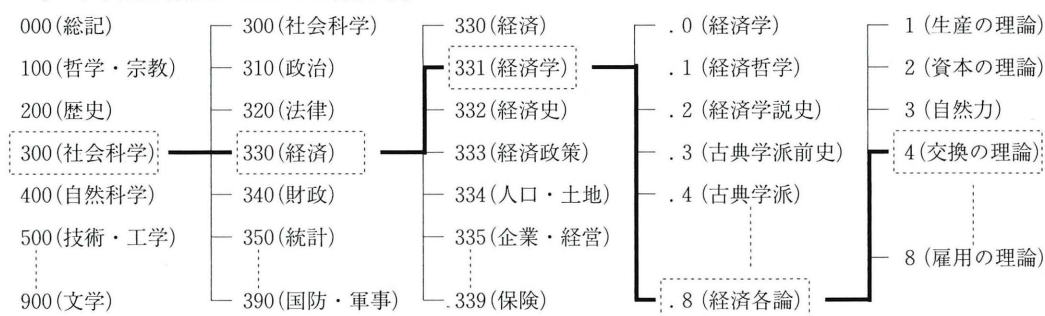


“主題(テーマ)で資料を探すには”

皆さんが、求める資料・文献を図書館で探す場合、目録カードやオンライン端末を用いて書名・著者名で検索するのが一般的ですが、書名・著者名が不明な場合やある抽象的な内容や具体的な事実など特定主題(テーマ)に関する適切な資料・文献を探す場合、有効かつ効率的な手段が主題検索です。

本学図書館の資料はすべて日本十進分類法(カードは6版・端末は8版)を基に分類され、それぞれの資料に＜分類番号(請求記号)＞を付与し、分類番号(請求記号)順に配列されています。この＜分類番号＞というのが、特定主題(テーマ)を記号(数字)に置き換えて表現しているもので、組織的、体系的に構成されています。

＜日本十進分類法における分類体系＞



例えば、価格論(経済学)という主題(テーマ)をこの日本十進分類法で探し求めてみると、社会科学→経済→経済学→経済各論→交換の理論

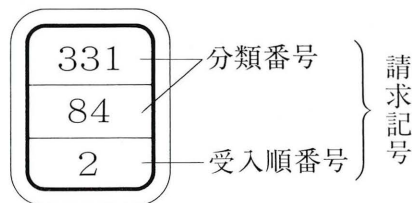
という図式をたどり、価格論(交換の理論)の分類番号が、＜331. 84＞だということがわかります。

また、慣れないうちは、同じ日本十進分類法の巻末にある相関索引で、「価格」という主題語で引いてみると、

＜分類番号＞

価格・価格論	331. 84
価格体系	337. 83
価格統計	337. 83
価格分析(経済学)	331. 8

＜本の背のラベル＞



指示されている＜分類番号＞が、経済学の他にも貨幣・通貨の綱目の中にもあることがわかります。上記の主題としては適切ではありませんが、参考資料として役立つかも知れません。なお、付け加えておきますが、資料(本など)の背のラベルの番号上二段が分類番号です。

分類番号がわかったら、分類目録カード(1F カウンター前)でその＜分類番号＞を調べるとその主題(テーマ)の本が集まっています。

オンライン端末では〔5. 分類番号〕に○○○. ○○○

と最高6ケタまで入力できますので、該当の＜分類番号＞を入力して送信キーを押して下さい。

このような主題検索の方法をとると、書名・著者名に関係なく、自分の求めている主題の資料・文献を探し出すことができます。

また、日本十進分類法は、オンライン端末(1F カウンター前)の傍に備付けてありますので、利用して下さい。また不明な点がありましたら 1F カウンターに気軽にご相談下さい。

新施設利用案内

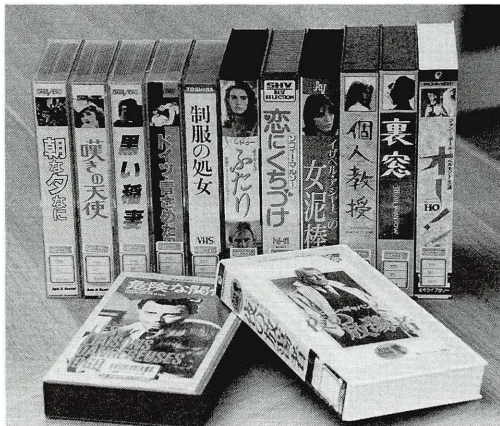
(1) AVコーナー

1階には、CD、LD、VTR、カセットテープが視聴できるブース（1人用8台、2人用2台）を設置しています。このうちの2台には Closed Caption Decoder がついています。この Decoder は洋ビデオで  マークや CC マークがついているものを見る時、生の英語音声字幕でそのまま見ることができるようになっており、英語学習に役立ちます。このコーナーで視聴できる資料は原則として図書館所蔵のもです。これらの資料の一部は展示していますが、その他の資料は、機械検索とカウンター備付の視聴覚資料目録で調べることができます。使用時間および申込方法は次のとおりです。

使用時間 9:00~20:00

申込方法

カウンター備付の「AV 利用票」に視聴したい資料名を記入し、学生証と一緒にカウンターに提出してください。利用は1日1回2時間までです。



(2) グループ学習室、グループ視聴覚室

3階と4階には、図書館の資料を利用しながらグループで学習するための学習室を設置しています。グループ学習室は、第1、第2、第3とあり、定員は24名、12名、12名です。また、グループ視聴覚室は定員15名です。これらの部屋は定期的、継続的な利用はできません。使用時間および申込方法は次のとおりです。

使用時間 9:00~20:00

申込方法

カウンターで「グループ学習室・グループ視聴覚室利用許可願」に所定の事項を記入し、提出してください。係員が内容を確認し、利用許可証を交付します。なお、申し込みは利用を希望する日の前日午前中までとなっていますので注意してください。

利用日当日

交付した利用許可証と学生証をカウンターに提出してください。利用する部屋のかぎをお渡します。

就任にあたって

魅力ある図書館にしたい

事務次長 若 松 昇

この4月に図書館に配属されましたが、まだ若い頃には、教務課、国際交流といった教学部門の経験はありますが、図書館業務は初めての経験故、大変戸惑った毎日であります。

しかしながら、短期間ながらも、今後検討し改善していくべき点など、僅かながらの輪郭がうっすらと見えて来たと思います。

「私学の危機」が叫ばれ、経営重視の風潮の中で、しかし何と云っても、学校存在の根幹は教学にあり、図書館を軽んじてはなりません。その中で、図書館は、端的な言い方に過ぎるか

も知れませんが、従来からの保存・保管施設という性格を併せもった殻から大きく脱皮し、各大学、各研究機関、或いはマスコミなども含めた総合的な学術情報の交換基地として、学生や教職員へのサービス機能を十二分に発揮していく図書館として、より高度に求められることと思います。これらのための学術情報ネットワーク、学内 LAN などの構築が期待されます。いずれにしろ、学生にとっての魅力ある図書館を築くよう努力する覚悟です。

報 告

《図書館委員会》

4.12

- ①図書館職員の人事異動について
- ②図書館増改築献堂式及び図書等移動の状況について
- ③平成5年度予算の一部減額について
- ④平成5年度私大助成の申請について
- ⑤平成4年度図書館決算について
- ⑥平成5年度図書館補正予算の申請について
- ⑦平成5年度共通研究図書費、一般図書費及び新聞雑誌費の配分について
- ⑧西南学院大学図書館グループ学習閲覧室及びグループ視聴覚室利用内規について

4.26

- ①平成5年度私大助成の申請について

《人事異動》

4月1日付

事務次長 鶴 正道 学生部事務次長に配転
 整理課長 若松 昇 図書館事務次長・整理課長に配転
 文書課長 若松 昇 図書館事務次長・整理課長に配転

5月1日付

情報サービス課 有森義則 経理課係長に配転
 係 長 大羽康二 経理課に配転
 司 書 森下 茂 情報サービス課係長に配転
 西南会館 長 山方信保 整理課司書に配転
 係 長
 学 生 課

意見箱を設置

1階ホールに「意見箱」を設置しました。大学図書館は、大学側と学生諸君の英知で作り上げていくものです。図書館利用の上で、ご希望ご意見があればご遠慮なくお聞かせください。今後の運営の参考にさせていただきます。また、購入希望図書申込書はカウンターでも受け付けていますが、意見箱に入れても結構です。

編 集 後 記

「世界において情熱なしに成就された偉大なものは決してなかった」(ヘーゲル)

何かをするときに、理性に裏打ちされた情熱があってこそ、精神的にも強くなれる。学問を身につけ、大いなる理性をもちたまえ。(J)